



都市大塩尻―松山東雲 初戦敗退し、泣き崩れる高相主将(1)ら都市大塩尻の選手たち

都市大塩尻(女子)好敗退

女子の都市大塩尻は半月前に左足首を捻挫した高相主将が痛み止めの注射を打ち、スパイク練習もしていない状態から強行出場。しかし、ランニングジャンプ94センチの跳躍力は影を潜めてスパイク決定率が上がらず、周囲の選手も手負いのエースを助けきれなかった。

岡田監督は「うちは選手層が薄かった。大エース(高相)が不調だと、みんなが精神的にマイナスになった」とした。松山東雲は中学を率いて全国優勝経験のある60歳の原田監督の下、最高到達点304センチの居村を軸にうまくいった。

都市大塩尻は第1セットを一度もリードできずに失った。第2セットは「相手に緩

けがのエース 助けきれず

みが出た(岡田監督)という隙を、センター小林慎や2年生レフト中島優の強打で突いてものにした。第3セットは勢いに乗れる好プレーがあった一方、サブミスやお見合いなど「流れを崩すプレーも多かった」(岡田監督)と相手を押し切れなかった。

試合後の高相は、4強入りした昨年のコートに一緒に立った先輩たちも駆けつけた観客席にあいさつすると、泣き崩れた。「自分がけがをした中で、チームが一つになろうとしてくれたが、期待に応えられなかった」

来年の主力となる2年生のセンター堀内は「本当に大エースがいなくてチームになるので、支え合ってみんなでやるバレーをしたい」と誓った。

■この記事・写真等は信濃毎日新聞社の許諾を得て転載しています。
無断で複製等、著作権を侵害する一切の行為を禁止します。

学校法人 五島育英会